

活用事例	③ 授業中に地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】校区自主防災組織との合同避難訓練		
学校名	宇部市立鶴ノ島小学校		
日時	平成25年11月12日(火) 2・3時間目		
場所	運動場及び西桃山広場	参加者	児童、教職員、校区自主防災会、PTA

1 訓練のねらい

授業中に地震が発生した場合に、自分の身を守るために基本的な行動ができるかどうか、また、避難経路の安全を確認しながら、避難場所まで整然と避難できるかどうかを検証する。

- ・ 桃山高台に徒歩で避難する所要時間は。
- ・ バイパス信号機でどのくらいの時間ロスができるか。
- ・ 2ルートにすると時間ロスは解消できるか。
- ・ 障害のある児童、負傷している児童への対応は可能か。
- ・ 保護者への引き渡しは可能か。



地震発生時

2 訓練の概要

訓練は授業中、地震が発生して、大津波に襲われる恐れがあるとの想定で行った。

本校海拔2.4メートル。

児童約230人はまず、教職員らと教室から運動場に移動した。

その後、地域住民ら約30人が要所で見守るなか、約2キロ先の高台にある西桃山の広場(海拔43.8メートル)を徒歩で目指した。

途中、急な坂道もあったが、6年生が1年生の手を引くなどして協力し合い、予定どおりの約20分で到着した。



横断歩道の誘導



6年生が1年生を引率



広場到着(警察からの講評)

3 訓練の成果と課題

当日夕方、地域の関係者と教職員が反省会を開催し、課題等を検証した。

- ・足止めが心配された市道北琴芝鍋倉町線（浜バイパス）の押しボタン式横断歩道は、2回で渡りきることができた。
- ・児童は、おしゃべりをせず真剣な表情で訓練に参加していた。
- ・避難経路にがけ崩れはないか、倒木はないかといった状況判断が必要となる。
- ・6年生が1年生を引率したのは大変よかった。日頃から、上級生がリーダーシップをとれるよう指導しておくことが大事である。
- ・避難経路は2ルートのほうがスムーズであるが、誘導員が少ないときは、1ルートで避難したほうがよい。
- ・保護者への引き渡しが可能であるかについては、今後の訓練で検証する。
- ・トイレの利用を含めて、避難後の過ごし方を検討する必要がある。
- ・「自分の命は自分で守る」を基本にしなが、助け合いも心がけさせたい。

〈児童の感想〉

「本当に起きたら、がれきなどに気をつけて、1年生を少しでも早く、広場まで連れて行きたい。」（6年生女子）



校区自主防災会関係者



市内が一望できる場所まで避難



校長先生による講評



校区自主防災会等関係者との反省会